

有史以来、人間を含む生物は常にインフルエンザウイルス他多くの感染症にさらされていた歴史を持つ。近年大騒ぎしている鳥インフルエンザに由来する感染症もその一つであるが今後各種インフルエンザによる恐怖は近代においては過去に比べて拡大に大きな被害をもたらす可能性があります。

特に鳥インフルエンザウイルスによるパンデミックの可能性が非常に高いと思われる中で現在においてそれをどう防ぐかと言うことが緊急の課題になっております。

鳥インフルエンザを例にとって考えてみる場合果たしてパンデミックに至る経過はどのような経過をもって被害が拡大するのかを検証する必要があります。

まず、日本において鳥インフルエンザウイルスが、パンデミックに発症する発生源になる可能性は極めて低いと考えられる。その理由の一つとしては、日本での貿易体制がほぼ完璧になされていることと鳥インフルエンザが発生する最大の要因は、渡り鳥からにわとりに感染するケースがほとんどであるということを考えれば、前に述べたように日本でのパンデミックの発生の回避はほぼないと考えられる。それを前提とした時の防護体制をどうするかということが今、日本でとられている防護体制が果たして正しいのかどうかということをも検証する必要があります。

ということは日本で鳥インフルエンザウイルスが養鶏場で発生した場合どうゆう防護服及び貿易体制を取るかということは極めて難しい事ではないと考えられます。

今、現在感染防護服として備蓄されている目的の多くは鳥インフルエンザが発生した時の為の目的としてなされていると考えますが、その鳥インフルエンザが発生した時のどの状態に対しての備蓄かが今明確化されていない。例えば、鳥インフルエンザウイルスが養鶏場で発生した時の備蓄であるのか、それを飛び越えて人へ感染した時の感染防護服であるのかの基準が非常に曖昧である。何をもちて何を目的として感染防護服を備蓄しているのか、その定義をはっきりしないことには予算のむだ使いであると考えられる。

よって今回の提案として何を目的として防護服を備蓄して行くのかを考えていくように今後進めて行きたいと思えます。